
ワークショップ 3

症例から学ぶ前立腺がん best practice

座 長 賀 本 敏 行 (宮崎大学医学部 発達泌尿生殖医学講座 泌尿器科学分野)
日 向 信 之 (広島大学大学院医系科学研究科 腎泌尿器科学)

司会のことば

このワークショップでは、前立腺がんの診断および治療における最新の best practice が紹介され、専門家が症例を通じて治療戦略について議論しました。以下、各発表内容を概説します。

1. 限局性前立腺癌に対する best practice 「根治療法」

(演者：鑑野 秀一，鹿児島大学)

鑑野氏は、限局性前立腺がんに対する根治療法について解説しました。前立腺がんは進行が遅いため、適切な治療戦略の選択が重要です。根治療法には、ロボット支援根治的前立腺全摘除術や放射線治療が含まれ、個々の症例に応じた最適な治療法の選択が患者の予後改善に繋がります。特にロボット支援手術では、精密な手術が可能ですとなり、合併症のリスクを低減することができます。

2. 過剰診断と過剰治療を回避するための「監視療法」

(演者：加藤 琢磨，香川大学)

加藤氏は、過剰診断や過剰治療を回避するためのアプローチとして「アクティブサーベイランス（監視療法）」を紹介しました。前立腺がんの進行が遅い場合、積極的な治療を行わずに経過観察を行うことで、患者の生活の質（QOL）を維持しつつ、必要なタイミングで治療を開始する戦略が有効です。これにより、不要な副作用を避けつつ、患者の負担を軽減することが可能となります。

3. 局所進行性前立腺癌に対する best practice 手術

(演者：三浦 徳宣，愛媛大学)

三浦氏は、局所進行性前立腺がんに対する手術治療について発表しました。手術適応の見極めが重要であり、進行度に応じて、リンパ節郭清などの追加が必要となります。最新の手術手技や術後ケアにより、手術成績の向上と術後の合併症リスクを低減する取り組みが進んでいます。

4. 前立腺癌に対する重粒子線治療：SAGA HIMAT 11 年 約 7000 例の治療を通して

(演者：戸山 真吾，九州国際重粒子線がん治療センター)

戸山氏は、重粒子線治療の効果と 11 年間の治療実績について説明しました。SAGA HIMAT では、約 7000 例の治療データを基に、重粒子線治療が高い治療効果を持つことが確認されています。この治療法は、正常組織へのダメージを最小限に抑えつつ、がん細胞に対して高い殺傷効果を発揮するため、QOL を維持しながら治療が可能です。

5. 人生 100 年時代の CAB を再考する

(演者：倉橋 竜磨，熊本大学)

倉橋氏は、高齢化社会を見据えた完全アンドロゲン遮断療法（CAB 療法）の再考について発表しました。長寿化に伴い、前立腺がん患者の治療において、ホルモン療法の長期的な影響を考慮した治療方針が重要です。副作用管理や治療の適応を見直すことで、患者の QOL を維持しつつ、より効果的な治療が期待されます。

6. 進行前立腺癌に対する best practice ～ ARSI による doublet therapy ～

(演者：郷力 昭宏，広島大学)

郷力氏は、進行前立腺がんに対する最新の治療法として、アンドロゲン受容体シグナル阻害薬（ARSI）を用いたダブルット療法について解説しました。この治療法は、ホルモン療法と併用することで進行がんに対する治療効果を向上させることができます。最新の臨床試験データを基に、ARSI 療法の有効性と安全性について議論されました。

ま と め

本ワークショップでは、前立腺がん治療の最新アプローチについて、各分野の専門家が症例を通じて実践的

な知見を共有しました。診断の精度向上や治療の個別化が進み、患者の生活の質を重視した治療が求められています。また、最新の放射線治療やホルモン療法、化学療

法の進展により、前立腺がん治療の選択肢が広がっています。今後も治療法の進歩により、前立腺がん患者の予後改善が期待されています。
